

肺炎球菌ワクチンが新しくなります。

2013.09.30

9月初めからの手足口病とヘルパンギーナの流行はほぼ終息に向かい、小児科の外来は落ち着いてきています。1歳未満だとゼイゼイが強く呼吸困難になりやすいRSウイルス感染症の流行が始まっており、注意が必要です。いつもより咳が強い、鼻水が強い時には早めに受診されることをお勧めします。

2011年の3月から始まったインフルエンザ桿菌b型に対するワクチンのヒブワクチン、肺炎球菌性髄膜炎を予防する小児用肺炎球菌ワクチン。この2つのワクチンのおかげで細菌性髄膜炎に罹るお子さんはあつという間にほとんどなくなってしまいました。日本の居住環境がいいというのも一因ですが、ワクチンの効果は絶大だったと感心しています。

肺炎球菌には多くの型があつて、現在使われているワクチンでは、子供の細菌性髄膜炎を起こしやすいとされる7つのものに対して抗体ができるように作られています。しかし、残念ながら、ごく一部ですが、ワクチンの型でない肺炎球菌による細菌性髄膜炎が起こっていることが報告されており、型を多くしたワクチンが望まれていました。

今年の11月から13の型に対応したワクチンが導入されることになりました。現在、2か月から始まっている肺炎球菌ワクチンを打っているお子さんは、11月まで待つことなく、3回の初回接種を終了するようにしてください。初回の3回の接種において新しいワクチンが出るのと接種を控えることは、細菌性髄膜炎の事の重大性を考えると、選択をしてはいけないものと私は考えています。4回目の追加接種は現在の7価のワクチンをしていいですが、11月まで待つ13価のワクチンをした方がいいのかは、かかりつけの先生にご相談ください。すでに4回目の接種が終わっているお子さんに対しては13価のワクチンの再接種をお勧めしますが、接種料金は約1万円と高価ですので、かかりつけの先生にご相談ください。